こどもと詩の講座

こどもと詩の世界を楽しもう！

講師：白根　厚子

（詩人・児童文学者）

ボランティアと図書館員で構成された実行委員会を２回行い、今回はテーマを「こどもと詩」としました。詩人のまど・みちおさん（2014 年没　享年 104 歳）の詩を取り上げて欲しいと考え、親交のあった白根先生に講師をお願いしました。県内在住で、子供への読み聞かせのほか、大人にも詩を読んでいる白根先生に、たくさんの絵本や詩を読んでいただき、詩の世界を楽しみました。

■子育てと絵本

子育ては大変です。へとへとになりながら悩んでいるとき、**『あかちゃんのうた』（松谷みよ子文　いわさきちひろ絵　童心社）**に出会い、子育ての心を取り戻したようにわらべうたを歌っていました。子供にも、わたしにも笑顔がでてきました。

草加市の公民館で絵本講座を受け、たくさんの絵本を紹介され、子供に読んでいるうちに自分も癒されました。他のお母さんたちにも、子供たちにも読んであげたいと思いだし、児童館で仲間と読み始めました。図書館が遠いので、公民館に働きかけ文庫を始めました。

■赤ちゃんに読む

児童館などで、たくさんの赤ちゃんに絵本を読み聞かせて、わらべうたを歌っています。**『だるまさんが』（かがくいひろし作　ブロンズ新社）**シリーズの３冊一緒に読むと赤ちゃんがとても喜びます。ためしてみてください。

『もこもこもこ』（谷川俊太郎作　元永定正絵　文研出版） 赤ちゃんが大好き。絵もいいですね。

わたしは秋田で育ちましたが、沢山の体験がわたしを育ててくれた気がします。わらべうた**「ずいずいずっころばし」「通りゃんせ」「かごめかごめ」**などで日が暮れるまで遊んだ体験をして、言葉から連想をする世界にいました。子供時代はケータイ・ゲームだけでなく、本を読み、色々な体験をさせてあげたいですね。そこから想像力が育っていきます。

■子供に読む、親子で読む

「かんかんおこりむし」（『めのまどあけろ』谷川俊太郎ぶん　長新太え　福音館書店より）

親子で本を楽しんでいます。母親がいつも寝る前に絵本を読んでいて、子供がイライラして玩具にあたっていたとき、母親から「かんかんおこりむし」の詩が口をついて出て、子供とかけ合いになり楽しんだそうです。これも詩の力でしょう。

『どうぶつはやくちあいうえお』（岸田衿子作　片山健絵　福音館書店）

＊参加者が１人ずつ早口で読む。

この詩は介護施設などでも活用でき、聞いて楽しく、読んでも楽しいものです。

「まんなかって」「いもうとは」（『これこれおひさま』小野寺悦子詩　のら書店　より）、『みみをすます』（谷川俊太郎著　福音館書店）

聞こえないものに「耳をすます」ということは子供にとっても大人にとっても大切です。想像する力を育てます。言葉から想像していく。それは相手のことも考えられる人間になることでしょうか。想像することは希望があることです。子供にも大人にも読んであげた

い詩です。

『なんげえはなしっこしかへがな』（北彰介文　太田大八絵　銀河社）子供の頃の雪の日、子供たちが集まると、順番に昔コ（昔話）話そう」ということになり「なんげえー、なんげえー…」という話をしたことがありましたが、絵本になっていて懐かしく思いました。

■大人と一緒に詩を読む

町内会でも朗読を教えてといわれ、大人と詩を読んでいます。茨木のり子、石垣りんなど色々な人の詩を読んでいます。

「ぞうきんがけ」（『高田敏子全詩集』高田敏子著　花神社　より）

読んでいると、涙を拭いている人がいました。世間話では、つっこんだ話はあまりしませんが詩を読む事で、琴線に触れたのでしょう。詩の力ってすごい。世界を広げてくれました。子供やお父さんお母さんにも詩を書いてほしいです。一人ひとりのなかの物語が沢山あることに気がつきます。

■まど・みちおさんの世界

まどさんの詩を家族に読んで欲しくて、自分で書いて家中に貼りました。

「くじゃく」「いぬ」（『まど・みちお全詩集』まど・みちお著　理論社　より）子供たちも声に出して読み、楽しみました。

一年生になったとき、娘から聞いたお話です。学校の下校時にカサを取りかえっこし、まどさん作詞の「ふしぎなポケット」を歌わせて帰るという子供がいました。両親の離婚という事実があり、子供の心の中に何かがあったと思います。**『しん子のポケット』（白根厚子作　新日本出版社）**の創作のヒントとなりました。まどさんには詩の使用許諾を快くいただきました。

また、同人誌仲間のはたちよしこさんの詩集『レモンの車輪』（はたちよしこ著　銀の鈴社）の表紙絵をまどさんが描きました。そんな関係から、仲間数人とまどさんにお会いしました。当時 80 歳くらいだったと思いますが、おだやかで偉ぶっていない素敵なおじいちゃんでした。宇宙から見ている目、神様みたいな大きな存在を感じながら詩を書いていると話されていました。**「地球の用事」（『まど・みちお全詩集』より）**は、大きなメッセージを伝えられている気がします。

「はひふへほ」（『まど・みちお全詩集』より）子供も大好きな詩です。

■みんなで読もう！

＊まど・みちおさんの詩を読む（実行委員）

①「はながさいた」「うさぎ」（『ぞうさん　現代日本童謡詩全集 14』まど・みちお詩　国土社　より）＊手袋人形で手遊びをつけて全員で

②「ことり」ほか（『ことり　まど・みちお詩の絵本 4』まど・みちお詩　小峰書店　より）

③「がいらいごじてん」（『ことばのうた　まど・みちお詩集』まど・みちお作・装画　銀河社　より）、「てはふたつ」（『まど・みちお全詩集』より）

＊手遊びをつけて全員で行いました。

■詩をつくること読むこと

「エイ」「鶏」「馬肉の祭り」（『わたしの記憶』白根厚子著　詩人会議出版　より）命をいただくという思いを詩にしました。声に出して読むと映像が広がります。詩も読んで欲しいですね。

「胸のどどめき」（『胸のどどめき　詩集』白根厚子著　草炎社　より）、「食べられなかったジャガイモ」（『わたしの記憶』より）

子供も大人もたくさんの詩や本に出会い、「詩っておもしろい、本っておもしろい」と思ってもらえるよう願っています。本を読むことで、大人になったとき沢山の贈り物に気がつくはずです。